

海況速報

平成10年度 第1号 (通算 No.61)
平成10年5月15日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

4月中旬～4月下旬の海況

【日本海海域】

本道西岸には、前回（2月期）に引き続き暖水渦（中心：200m層水温3℃以上）が積丹半島北西沖にあります。この暖水渦の南方に冷水渦（中心：100m層水温3℃以下）があり、津軽海峡西方から北上している対馬暖流（100m層水温6℃以上の範囲）の先端が東方に向かい、岩内湾に流入し始めています。前回、利尻・礼文島西方の沿岸側に形成されていた冷水域（200m層で水温2℃以下の範囲）は無くなりました。津軽海峡西方はるか沖合に暖水渦（中心：100m層水温8℃以上）が形成されています。

水温について見ると、北緯45度30分線では、累年平均（*1）に比べ、礼文島より東方で各層約-0.3℃、礼文島北西沖定点で各層約-0.8℃となっています。北緯43度30分線では、累年平均に比べ、石狩湾湾口部の表面で+0.4℃、50m層で-1.0℃、積丹半島北西沖定点の100m層で-0.8℃、50m層以浅で0～+0.4℃になっています。北緯42度30分線では、累年平均に比べ、瀬棚沖の最も岸寄りの定点の200m層で+0.2℃ですが、100m層以浅の各層で+1.7～+2.2℃の範囲内にあります。

余市における4月上旬以降5月上旬までの沿岸水温（旬平均）は、平年値に比べ、4月上旬の-0.3℃から4月下旬の+1.4℃（「平年並み」から「かなり高い」）まで急激に上昇し続けた後、5月上旬には+0.3℃（「平年並み」）になりました。

【道東太平洋海域】

釧路南東沖の大きな暖水塊（中心：200m層水温5℃以上）は、前回（2月）より接岸し、依然として勢力を保ち続けています。4月の釧路南東沖に暖水塊が来ているのは、1991年（平成3年）以来です。また、道東沿岸の50m層には0℃以下の沿岸親潮(*2)が根室半島から襟裳岬まで流れています。沿岸親潮のすぐ沖を流れる親潮の本流は、沿岸親潮と暖水塊の狭い間から、そして暖水塊の東側に沿って迂回するように、三陸方面に向かって流れているようです。

水温について見ると、暖水塊の周辺の広い海域で、50m・100m層では1℃台になっています。道東沿岸を流れている沿岸親潮の50m層の最も岸寄りの低水温部分を見ると、累年平均に比べ、-0.9～-0.5℃となっていて、累年平均からの評価から見て「やや低い」状態にあります。

【道南太平洋海域】

道南太平洋海域では、水温3℃以下の親潮が100m層以浅を広く覆っています。50m層では、前回（2月期）に引き続き1℃以下の沿岸親潮が道東沿岸から襟裳岬を回り、襟裳岬から噴火湾湾口部、そして恵山岬まで岸沿いに流れています。津軽海峡から道南太平洋海域に流入する津軽暖流は、青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下しています(*3)。

水温について見ると、累年平均に比べ、恵山岬以北の海域の表面で-1~0℃となっています。同じく恵山岬以北の海域の50m・100m層で-2.5~-1.5℃の範囲内に入るところが多くなっていますが、東経141度20分線では、この範囲内は累年平均からの評価から見て「かなり低い」~「非常に低い」状態です。

【オホーツク海海域】

表面水温3℃以上の海域に着目すると、前年同期（4月）では宗谷海峡から東経143度以西まででしたが、今回は知床半島まで達しています。また、100m層における水温3℃等温線を見ると、紋別沖では表面の3℃線よりも沖合にあることから、宗谷暖流は潜流となって流れていることがわかります。

水温について見ると、累年平均に比べ、最も岸寄りの表面水温は、網走沿岸部で+2.7℃、その他では+0.3~+1.3℃の範囲に入っています。最も岸寄りの50m層水温は、累年平均に比べ、枝幸沖で-1.1℃、知床岬沖で-0.5℃、その他では+1.0~+1.9℃の範囲に入っています。

資 料 〔観測期間〕

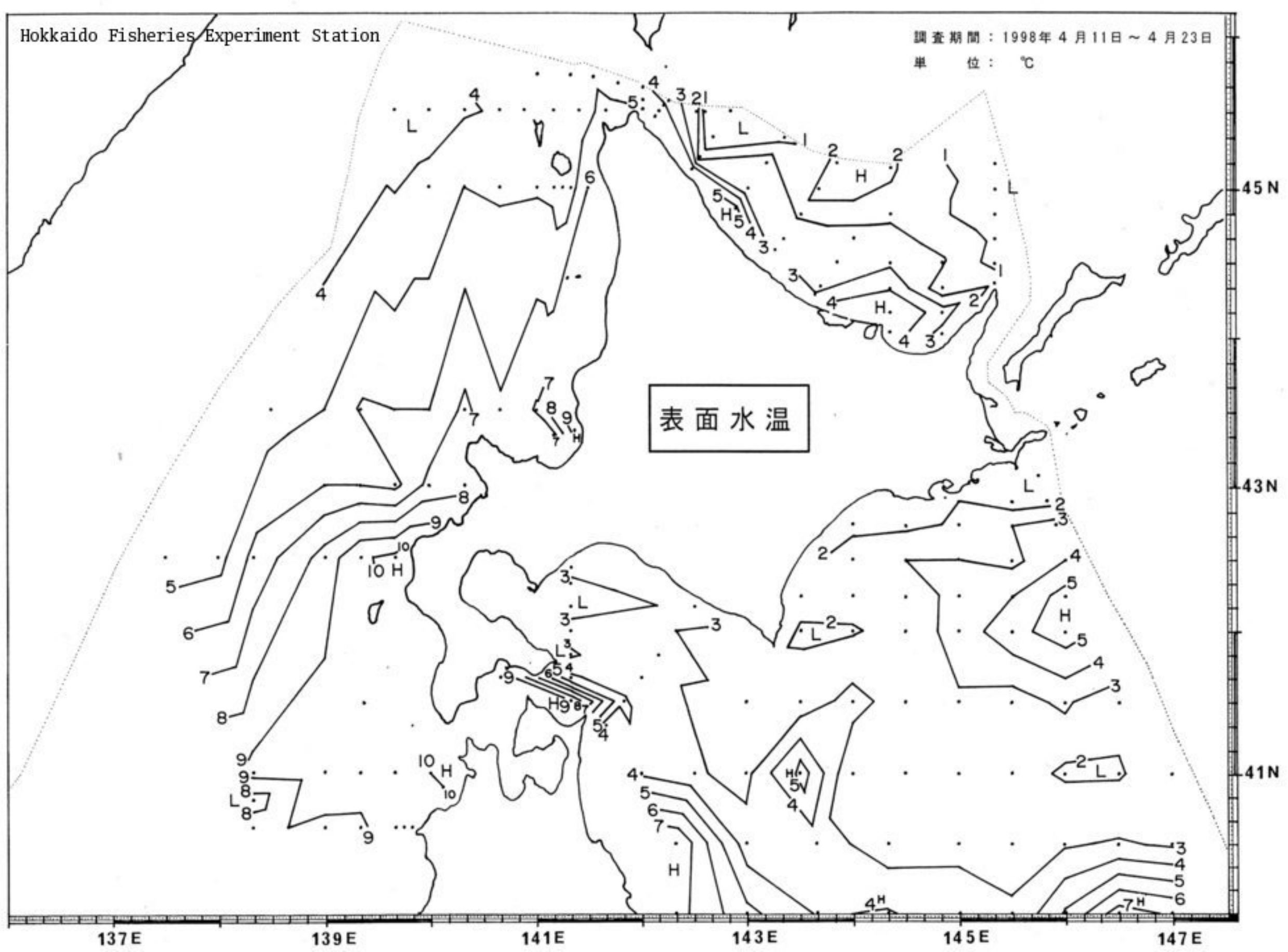
青森水試 (東奥丸)	平成10年4月11日~同4月12日 (東北日本海海域)
青森水試 (東奥丸)	平成10年4月16日~同4月16日 (東北日本海海域)
稚内・網走水試 (北洋丸)	平成10年4月20日~同4月23日 (オホーツク海海域)
稚内・中央水試 (北洋丸)	平成10年4月14日~同4月17日 (道北日本海海域)
釧路水試 (北辰丸)	平成10年4月13日~同4月19日 (道東太平洋海域)
函館水試 (金星丸)	平成10年4月14日~同4月16日 (道南太平洋海域)
中央水試 (おやしお丸)	平成10年4月14日~同4月16日 (道西日本海海域)
中央水試 (おやしお丸)	平成10年4月23日~同4月23日 (道西日本海海域)

*1: 平成元(1989)年~平成9(1997)年までの平均値を使用しました。

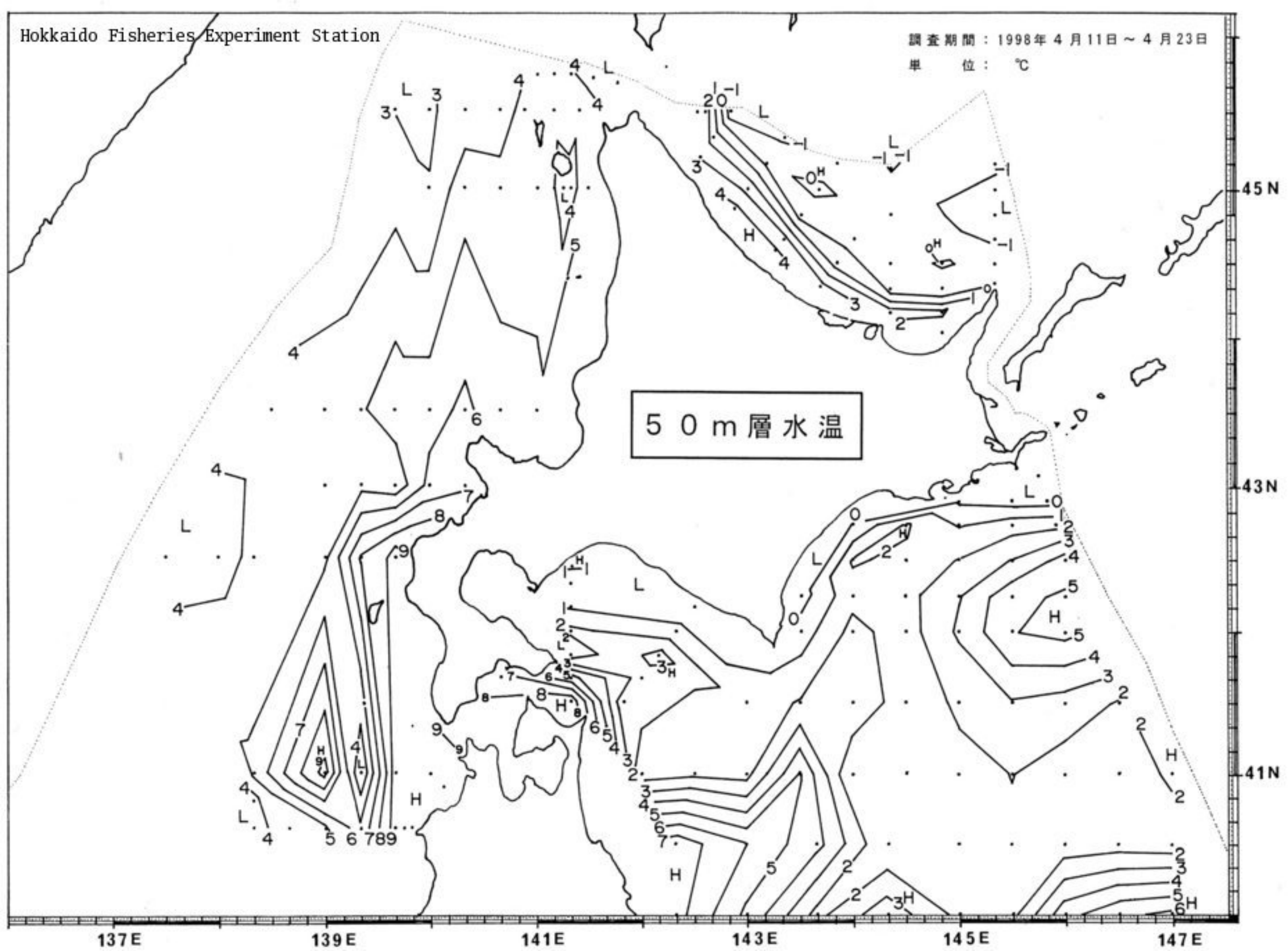
*2: オホーツク海の海水の融氷水を含む親潮として特に沿岸親潮という名前が付けられています。

*3: 津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。

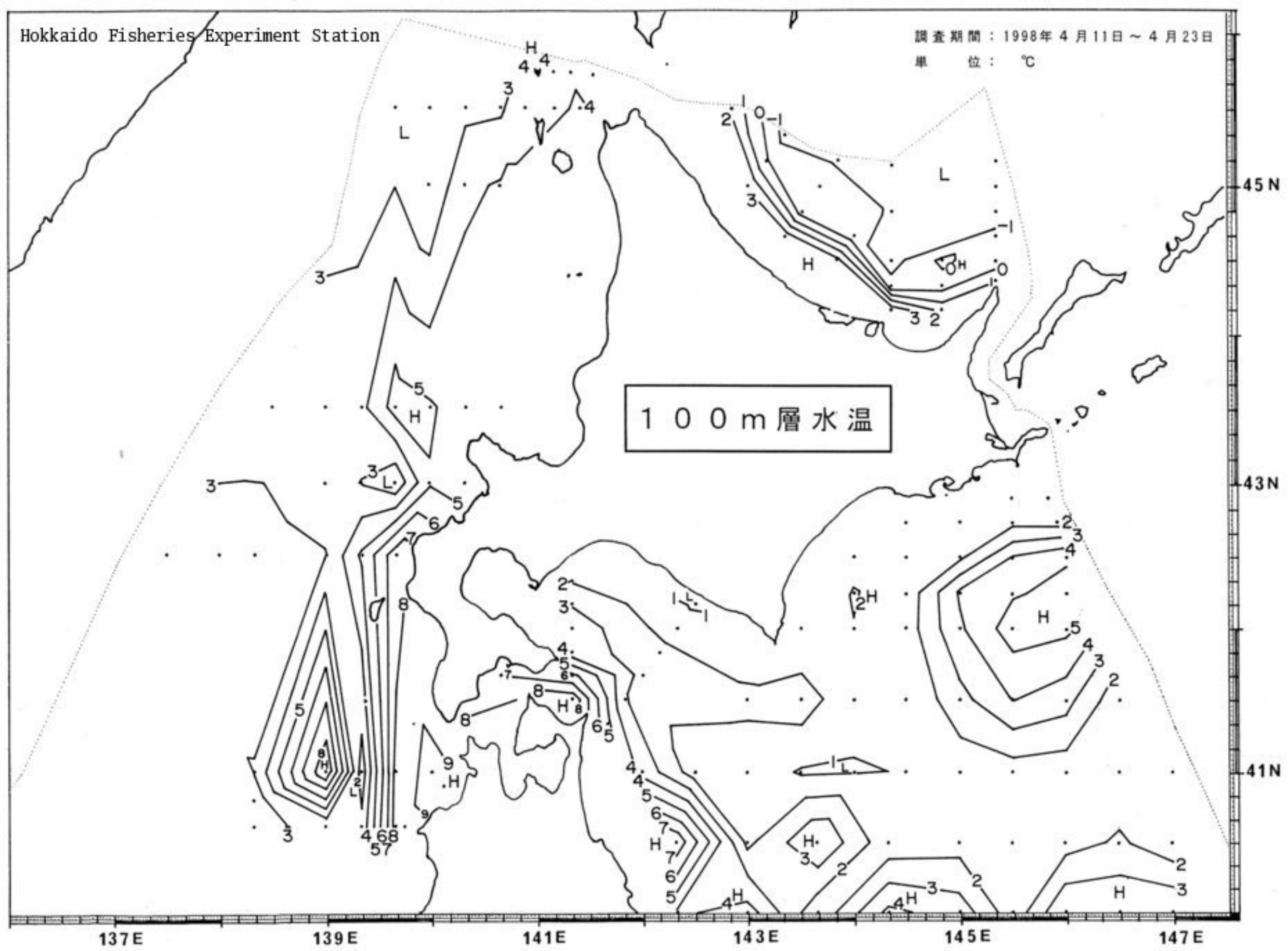
表面水温



50m層水温



100m層水温



137E

139E

141E

143E

145E

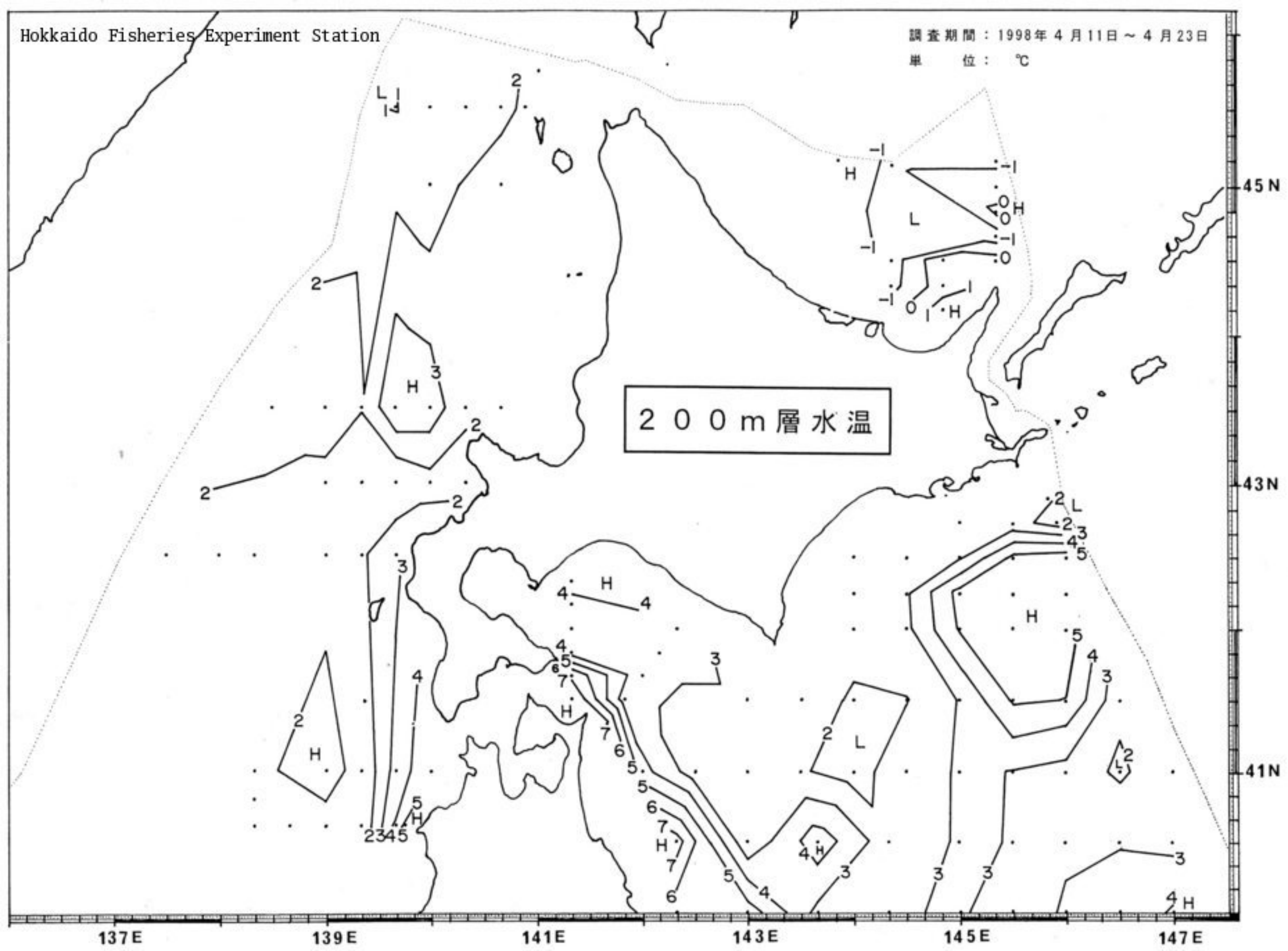
147E

45N

43N

41N

200m層水温



137E

139E

141E

143E

145E

147E

45N

43N

41N